



Photo by
Hiroshi Takasugi

“失敗は成功の基”

園長 高杉 洋史



失敗は成功のもと」という言葉を最近聞かなくなりました。反対に、子育てに大切なことは「成功体験」をさせることだと言われる世の中になつてきました。

褒めて子育て」も定着してきましたが、褒める方法とか、タイミングとか、子どもの性格とかで、この方法も単純ではないこと、そして褒めすぎの弊害もわかってきました。子育ても、教育も難しい。

園庭の草刈りや外部環境の整備を手伝ってくださっている鍛冶江さんから、梨の木の枝が折れている報告を受けました。またハクビシンが来ているかもしれない。」とは鍛冶江さんの推理です。ハクビシンには数年前天井に入られて、プロの方に追い出してもらった経験があります。さて園長が現場を確かめると、今年の梨の木には、少し高いところにかわいい実がいくつもなつています。子どもたちの観察力は日々鋭くなつていきます。野生生物は、果物にしる野菜にしる、おいしくなつてから食べます。小さな青い実は食べないでしょう。幼稚園内の花は摘んでもいい約束だし、子どもたちには花も実も同じようなものです。枝を引き寄せて実を取つたのでしょうか、引つ張りすぎて枝が折れたのでしょうか。さあここから教育の難しいところですが、枝を折らないでね」というのは簡単なのですが、いい子ばかりなので、枝が折れるような遊び方はすぐにやめましょう。

園長としては小さな冒険に挑戦してほしいのが本心です。枝を折る経験で、どのくらい力を入れてたわめると折れるかとか、木の種類によつてたわみ方が違つとか、折れた時の小さな罪悪感とか、先生に怒られないかの心配とか、それでも手に入れた小さな梨の実の値打ちとか、友達に對する誇らしさとか。梨の小枝一本で子どもは多くのことが学べます。

酸っぱい葡萄」という童話では、キツネが手の届かないブドウをあきらめるためにあのブドウは酸っぱいのだ」と心に言い聞かせる話がありましたね。子どもたちは手の届かないところの梨の実をどんな気持ちで眺めているのでしょうか。子どもたちの気持ちを思うだけで自分の幼い頃の記憶がよみがえります。

梨の実のほかに子どもたちが楽しんでいるのは、5月の連休明けのサクラランボ、6月上旬は砂場の横のアンズ、桑の実は豊作で期間も長かったです。花はハンジューやガザニアを花束にしてお母さんにあげるなんていう子もいます。ブラシの木の花も人気でした。野菜はピーマンとナスがなり始めました。もう少し待てば食べごろになると思いつつも、待ちきれない子どもたちの気持ちもよくわかります。

今年もミニトマトを植えるのに手間取っていますが、次のドリカムタイムでは植えたいと思っています。ご期待ください。

おおらかな気持ちで子育てしようね。

